

## 地域に根ざした顔の見える運動を前進させ、『働くことを軸とする安心社会』を実現しよう

連合鳥取は11月25日(金)、倉吉未来中心・小ホールにおいて「第19回定期大会」を開催し、1年間の総括と新年度の運動方針、東部・中部地協の専従事務局長を含む2012-2013年度役員体制を確認しました。



大会議長団あいさつ

(清水水代議員(自治労):左・藤岡代議員(紙パ連合))



連合は、直ちに災害救援本部を設置し、被災地に約6千人のボランティアを派遣した。延べ日数換算すると3万5千人以上を数える。鳥取県からも産別を通じて、現地へのボランティアに多くの組合員のみなさんが参加している。この活動は被災地のニーズに基づきながら、連合として新たな復旧・復興の取り組みをしていく。また、連合のエネルギー政策については「連合第1回執行委員会(11年10月27日)」で連合の

「五十嵐会長あいさつ要旨」  
一昨年の11月、連合結成20周年という節目の大会から2年が経過した。その2年目の活動として、多くの課題解決に対して全力で取り組んできた。ともに運動に結集いただいた構成組合のみなさんに心からの敬意とお礼を申し上げる。本日の大会で一年間の運動の総括と、これからの運動の発展に繋げていくようご議論をお願い申し上げます。  
《東日本震災》  
3月11日午後2時46分、これまで経験したことがない巨大地震とそれに続く津波が東日本を襲い、死者・行方不明者が2万人近くにのぼる未曾有の大災害となった。加えて、現在も続く福島第一原発事故による放射能放出により、かつて経験したことのない複合型の災害となった。被災された多くの方々へ改めて心からお見舞いを申し上げます。

連合は、直ちに災害救援本部を設置し、被災地に約6千人のボランティアを派遣した。延べ日数換算すると3万5千人以上を数える。鳥取県からも産別を通じて、現地へのボランティアに多くの組合員のみなさんが参加している。この活動は被災地のニーズに基づきながら、連合として新たな復旧・復興の取り組みをしていく。また、連合のエネルギー政策については「連合第1回執行委員会(11年10月27日)」で連合の

《組織強化・拡大》  
労働組合の推定組織率は18.5%である。連合は組織拡大を最重要課題として取り上げ、現在の680万から連合結成30周年となる2020年を目標とする中期目標として「1千万人連合の実現」をめざしている。連合鳥取は昨年3万2千人を目標に組織拡大を進めてきた。各産別とも組織拡大を図っているが、一方で企業再編などにより、それ以上の組織人員の減少を余儀なくされている。毎年じりじりと減少する組織人員の減少に本気で歯止めをかける対応をしなければならぬと考える。

また、質の良い雇用を求めるとともに、非正規労働者の賃金の底上げや労働条件の向上のためにも非正規労働者の組合員化を急がなければならない。非正規労働者、未組織労働者の組織化を進めることは「一人ひとりの労働者」を守り、「労働組合の現在」を守り、「未来を創る運動」である。そのことをお互いが認識し、各産別と連携し課題に真正面から向き合っていく。

また、質の良い雇用を求めるとともに、非正規労働者の賃金の底上げや労働条件の向上のためにも非正規労働者の組合員化を急がなければならない。非正規労働者、未組織労働者の組織化を進めることは「一人ひとりの労働者」を守り、「労働組合の現在」を守り、「未来を創る運動」である。そのことをお互いが認識し、各産別と連携し課題に真正面から向き合っていく。

《春生活闘争》  
2011春生活闘争はヤマ場直前に東日本大震災に見舞われ大変な状況下での闘いとなった。直近のピーク時である97年の賃金水準への復元を

追及し、家計と企業の配分バランスの歪みを解消するために1%を目安に配分を求めた。連合鳥取の8月末の最終集約では、単純平均で3千3百12円と昨年より285円の増、率についても0.25ポイントの増となった。本日に厳しい環境下の中で昨年を上回る結果を引き出したことは、産別・単組の粘り強い交渉の結果だと考える。

2012春闘についても、昨年と同様に基本給や一時金、手当などを含めた給与総額で1%を目安に配分を追及する方針が12月の「連合中央委員会」で方針決定される予定である。

《政治課題》  
09年8月「コンクリートから人へ」の方針を掲げた民主党を中心とする政権が誕生し歴史的な政権交代が実現した。新政権は「国民の生活が第一」「脱官僚依存」等を掲げて踏み出したが、鳩山・菅両政権は重要課題が先送りされるなど機能しない政治が続いた。その後、野田政権が誕生し、野田総理は就任以来「分厚い中間層」について言及してきた。中間層からこぼれた人への雇用創出や労働条件の底上げ、セイフティネットの強化が急がれる。ラストチャの議論することは徹底して議論し、決めたことについては一致

協力していく、責任ある与党としての対応を願う。

本年4月の統一地方選挙は、これまでの民主党への失望感などと相俟って与野党対決の首長選挙や道府県・市町村選挙でも議席を大きく減らし、鳥取県でも大変厳しい選挙となった。

知事選では、連合の推薦の「平井伸治」氏は、これまでの県政の実績と、今後の政策実行への期待として、多くの県民からの支持を受けて圧勝した。

県議選では、連合は「一人でも多くの代弁者を増やす」ということで、これまでにない多くの推薦・支持候補者を決定し臨んだ結果、8名の当選を果たすことができた。この逆風の中で何とか戦い抜けたことは、構成組織の役員・組合員みなさんの力の結集であり、最後の最後まで支援をいただき重ねてお礼申し上げる。一方で、連合鳥取の支持の条件を履行することができなくなり、支持取り消しという議員が出たことは本当に残念である。

《地域に顔の見える運動》

連合は、職場・地域で「顔の見える運動」を推進しようとして「連合第3回定期大会(93年)」で呼びかけ、「地域に根ざした顔の見える運動」の実現をめざして地方連合会の強化が打ち出された。「連合第9回定期大会(05年)」では地協の再編と強化を決定し、最終的には「12年の6月までに300地協の専従体制を確立する」となっている。

連合鳥取も「第14回定期大会

(06年)」において地協活動強化方針の中間報告をとりまとめ、西部地協をモデル地協として取り組んできた。本日の大会で連合鳥取の各地協の専従も県連合の副事務局長兼務として確認をされるところである。このことは、これまでの地協の悲願であったとともに、地協運動再生のスタートでもある。

これからは、連合鳥取組合員みなさんにしっかりと「連合の顔が見える運動」を実現させることはもちろん、外部に対して「連合の運動が見える」よう実行しなければならぬ。

《働くことを軸とする安心社会》の実現》

連合は連合結成10周年において「労働を中心とした福祉型社会」をめざして運動を進めてきた。一昨年の連合結成20周年の際には、私たちが向かう社会像を再度議論し、10年前のバージョンアップとして「働くことを軸とする安心社会」、すなわち「働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立すること、自己実現に挑戦し、それを相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセイフティネットが組み込まれている、活力あふれる参加型の社会」という新たな社会像が「連合第59回中央委員会(10年12月)」で確認された。

連合はその社会の実現に向け、連合構成組織が一体となり運動を押し進めていかなければならない。加えて、これまでの労働

運動が自ら創り上げてきた労働金庫や全労済、労福協などの労働者福祉団体と連携を密にしなから、我々のめざす社会の実現と、地域に根ざした顔の見える運動を展開していく決意である。

《おわりに》

各構成組織組合員みなさんの連合鳥取への結集を一層高めていただくとともに、連合鳥取の向こう1年間の運動をより確かなものにしていく、その決意を込めてあいさつとする。

《ごあいさついただいた来賓のみなさま》



左より/平井鳥取県知事・水谷連合副事務局長・森田鳥取労働局長 湯原民主党鳥取県連代表(衆議院議員)・川上参議院議員

◆2012~2013 連合鳥取役員

Table listing executive committee members, officers, and board members of the union for 2012-2013, including names and affiliations.

《議案討議の様子》～発言された代議員～



上段左より/全国農団労自治労フード連合

下段左より/日教組・日教組・JR総連・自治労

《退任役員》～お世話になりました～



・執行委員 仲田敏幸(電力総連) 写真左 三村貴志(全国ガス) 写真右
・会計監査 川戸敏幸(全水道)



## 大会宣言

東日本大震災は、わが国観測史上最大の地震と大津波そして福島第一原子力発電所の事故という未曾有の複合的大災害となった。8カ月が経過した今も、被災地はもとより、わが国全体の社会、経済に深刻な影響を及ぼしており、一刻も早い復興・再生が急がれる。

そのためには雇用の維持・創出は必須である。働くことによって、日々のくらしを取り戻し、職場と地域が再生していくことが求められる。わが国は、急速な少子高齢化の進行、長期にわたるデフレ、非正規雇用の増大、格差・貧困問題など持続可能性を脅かす構造問題に直面している。これに加えて、円高や国際金融危機など内外の情勢は一層厳しさを増しており、輸出産業はもとより、地域経済や雇用にも深刻な影響を与えている。これらの問題を解決していくことは焦眉の急であるが、なによりも被災地の復興・再生が、活力ある日本再生の先導的役割を担うものであり、わが国が抱えるこれら構造問題の克服につなげていかなければならない。

連合は、大震災以降、半年間にわたり多くの仲間を救援ボランティアとして派遣しつづけ、顔の見える連合運動としても高い評価を得た。この取り組みを通じて、私たちは絆の大切さを実感し合い、連合運動の持つ力の大きさを再確認できた。

連合は、わが国がめざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を提起し、実現に向けて歩み始めている。働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通して社会に参加し、社会的にも経済的にも自立し、相互に支えあい、人と人とのつながりを強めていく。まさに「絆」を大切にすることこそ、復興・再生につながる。連合は、この「安心社会」の実現に向けて、その持つすべての力を注いでいく。

私たち連合鳥取は、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け、連合鳥取に結集する2万8千人の組合員が丸となり運動への「参画」と組織の「拡大」をはかり、労働組合が社会的インフラとしての役割を發揮していく。あわせて、「地域に根ざした顔の見える運動」を前進させ、地域により信頼される運動の構築をめざし、構成組織・地協との連携を一層強化するとともに、志を同じくする幅広い人々や組織、団体との連携もはかり、新年度の運動を力強く展開していく。

地域に根ざした顔の見える運動を前進させ、「働くことを軸とする安心社会」を実現しよう！

2011年11月25日  
連合鳥取第19回定期大会

## 2012 春季生活闘争基本構想

### ■2012春季生活闘争の展開

2012春季生活闘争の展開については、すべての労働者の処遇改善に向けて昨年同様、マクロ的観点から、すべての労働組合が1%を目安に賃金を含め、適正な配分を求めていく。

なお、産業・企業によってそれぞれおかれた環境には違いがあることについて相互に理解し合う。

#### 1. 賃上げ要求

- ①すべての労働組合が1%を目安に賃金を含めた適正な配分の追求を実施
- ②所得と生活水準の低下に歯止めをかけるため、賃金カーブ維持分の確保
- ③賃金制度が未整備な組合は産別の指導のもとで、制度の確立・整備に向けた取り組みを強化

#### 2. 総実労働時間の縮減によるワーク・ライフ・バランスの実現

- ①「連合中期時短方針(2007年7月中執確認)」を踏まえた展開の継続実施
- ②労働時間規制の取り組み(36協定(特別条項付協定)の点検、適正化等の取り組み、インターバル規制等)
- ③時間外割増率の引き上げ
- ④今後の具体的なワーク・ライフ・バランスの取り組みに活かすため、今夏の電力供給不足への多様な働き方による対応の検証と課題整理

#### 3. 企業内最低賃金の取り組みの抜本強化

- ①企業内最低賃金の協定の締結拡大、水準の引き上げと協定化
- ②企業内最低賃金の適正な水準での協定化と特定(産業別)最低賃金の水準引き上げ

### 《連合第1回中央執行委員会／2011.10.27》抜粋

- ③介護やサービス産業など第三次産業分野の特定(産業別)最低賃金の新設
4. 一時金水準の向上・確保
5. ワークルールの取り組み
  - ①労働関係法令遵守の徹底
  - ②65歳までの雇用確保～高齢者雇用「2013年問題」に向けた対応
  - ③快適な職場づくり～安全配慮義務の履行
6. 男女間賃金格差是正の取り組み
7. 「運動の両輪」としての「政策・制度実現の取り組み」
  - ①新成長戦略の推進による雇用創出・人材育成、地域活性化に向けた中小企業・地場産業等の育成・支援
  - ②安心社会を支える社会保障・税の一体改革の実現
  - ③生活できる水準～最低賃金の早期引き上げ
  - ④非正規労働者の均等・均衡処遇の確立
  - ⑤民主的な公務員制度改革と労働基本権の確立
  - ⑥公契約基本法の制定を含む公契約の適正化

### ■すべての組合が取り組むべき課題(ミニマム運動課題)

すべての組合が共同して取り組む課題として、以下の4つの項目を「ミニマム運動課題」として設定し、労働組合運動の求心力を高めるとともに、交渉結果の社会的波及をめざす。

- ①賃金制度の確立・整備と賃金カーブ維持分の明示・確保
- ②非正規労働者を含めたすべての労働者を対象とした待遇改善
- ③企業内最低賃金協定の締結拡大と水準の引き上げ
- ④産業実態をふまえた総実労働時間の短縮、時間外・休日労働の割増率の引き上げ等

## 東部地協「自然環境保全活動2011」を実施

11月13日(日)、「東部地協自然環境保全活動2011」を参加者41名のもとで開催しました。

今回は国府町をボランティアガイドの方と一緒に貸し切りバスで巡る活動でした。

まず、因幡万葉歴史館で古代の生活実態を学び、自然は当たり前にあるものではないということがよくわかりました。

次に殿ダムを見学しました。建設にあたり自然との調和を損なわないように原石を使用して造られています。袋川の水量を調整して市内を洪水から守り、上水道、工業用水道へ供給されます。ダムの下に広大な土地ができ、どのように使うか協議が行われています。

その横には袋川発電所があります。自然にあり、尽きることなく利用できる再生可能エネルギーで発電し、発電した後の水を近くに流し下流域の水量を確保するようにした直下型の環境に優しいダムです。

その後行った雨滝では20年前に産廃処分場を造る計画があり、連合鳥取でも反対の署名活動等を行い計画は中止となりました。また自然を守るため付近の山林を町が買上げたそうです。

最後に上地の「扇の里交流館」で昼食をとりながら、通称「京ヶ原」という棚田保全活動の話をお聞きしました。放棄田が無く活発な活動がされています。しかし高齢者が多く、活動を維持していくのも年々大変であり、4月と8月にはボランティアによる用水路の掃除をしていただいているそうです。みなさん参加されませんか？爽快な汗をかけると思います。

(寄稿 東部地協副議長 西川光治さん)





陶芸体験



白壁土蔵郡の散策

# 青年委員会“産別交流会”を開催

11月20日(日)、倉吉市の白壁土蔵郡・赤瓦にて38名の参加のもと、「産別交流会」を開催しました。

今回の産別交流会では国重要伝統的建造物郡保存地区である白壁土蔵郡・赤瓦の散策および陶芸体験を行いました。

まず、白壁土蔵郡・赤瓦の散策では、伝統的建造物についてガイドをいただきながら当時の生活について知るとともに倉吉の歴史に触れることができました。

次に陶芸体験では、先生の説明を聞きながら慣れない手付きで思い思いの作品を作りました。なかなか思う様に行かず陶芸の難しさを実感しながらも実際に自分の作った物が作品になる喜びも感じる事ができました。

最後に昼食をとりながらの懇親会を行い、おいしい食事と共に途中、豪華景品を賭けたビンゴゲームで盛り上がりながら組合員相互の交流を深めることができました。

今回の活動では、家族での参加や女性の参加者も多く幅広い組合員での活動ができ、大変有意義な活動になりました。(寄稿 青年委員会副委員長 北谷重陽さん)

## 連合鳥取活動紹介

### 全国一斉「円高・震災・雇用」 年末労働相談

- 12月8日(木)・9日(金)  
いずれも10時00分～19時00分
- 連合鳥取非正規労働センター事務所

お気軽にお電話ください

相談無料・秘



連合鳥取は「労働相談ダイヤル」を通念的(平日)に開設し、労働者のみなさまからの労働問題に関する様々な相談事をフリーダイヤルで受け付けています。

### 東部・中部・西部地協 「定期総会」

- ◇東部地協(第18回)
  - ・日時/12月14日(水)18時30分～
  - ・場所/白兔会館
- ◇中部地協(第17回)
  - ・日時/12月16日(金)18時30分～
  - ・場所/倉吉未来中心
- ◇西部地協(第17回)
  - ・日時/12月16日(金)18時00分～
  - ・場所/米子コンベンションセンター

#### 《内容》

- 2011年度活動報告
- 2011年度会計決算、監査報告
- 議案
  - ・2012年度運動方針(案)について
  - ・役員選挙
  - ・その他

### 青年委員会 「第21回定期総会」

- 12月18日(日)10時00分～
- 倉吉市・伯耆しあわせの郷

#### 《内容》

- 2011年度活動報告
- 2011年度会計決算、監査報告
- 議案
  - ・2012年度運動方針(案)について
  - ・2012年度予算(案)について
  - ・役員選挙
  - ・その他

### 連合鳥取 「2012新春のつどい」

- 2012年1月25日(水)  
16時30分～
- 鳥取市・白兔会館



### 連合鳥取 「2012春闘開始宣言集会」

- 2012年1月28日(土)  
13時30分～
- 琴浦町・まなびタウンとうはく

## 産別・単組 活動紹介

### ◇全国農団労 (JA鳥取労連)◇

#### ■世界食料デーは10月16日

全国農団労では国際食糧機関 (FAO) が定めた「世界食料デー」の「10月16日」に毎年、食糧問題について世間に広くアピールする行動を行っています。目的は世界から飢餓をなくすこと、「みんなで食べる幸せ」を訴え、県民・市民には世界から食料を買いあさる日本の原状を改め、食料自給率の向上が必要であると訴えています。

例年は街頭宣伝とチラシ配布、地元農産物提供を行っています。今年は10月15日に鳥取市賀露の「わったいな」で県下労組員を対象に料理教室を行いました。地産地消にこだわり、食べ物くずを出さない、食べ物を捨てないことを基本に食育の大切さを学びました。

おりしも国論を二分するTPP交渉参加の是非が問われています。現在でも食の6割を輸入に頼っており、TPP参加となれば農畜産物の輸入がさらに増えると思われます。どうして自給率50%が達成できるのか理解に苦しむところです。食の安全・安心、緑・水・環境保全は農山村に住み、農林業に携わる人たちのおかげで達成される、それを支えるのは消費者でもあります。JA鳥取労連は日本農業再建に向けて生産者と消費者のかけはしになりたいと考えています。



10月16日は世界食糧デーです  
健康・環境・農業のことを考えよう!

## てんじんくらぶ

連合鳥取は、2012年度の運動をスタートした。新年度の運動の柱は「組織拡大・強化」である。20年前、連合鳥取発足当時の組織人員は約3万4千人。現在は2万7千5百人で、その減少は著しい状況である。原因は企業の組織再編等色々あるが、毎年じりじりと減少する組織人員の減少に本気で歯止めをかけることが喫緊の課題である。労働相談からの組合づくりは勿論のこと、産別とベクトルを合わせ、グループ企業内における組織化や同一産業界における組織化、産別加盟等ターゲットを絞った取り組みが重要である。▼もうひとつの柱は、「地域に根ざした顔の見える運動」の推進である。今大会より、従来の西部地協に加え、中部、東部地協に専従事務局長を配置した。労働相談、中小労組支援、組織対策、政策・制度の実現等、地域でより信頼される運動を展開されることを期待している。▼2万8千人の組合員が一丸となり、運動への「参画」と組織の「拡大」をはかり、労働組合が社会的インフラとして役割を發揮していきましよう。

(新前)

